

何もない越谷?! 古代は海の底?! イヤイヤ、古代遺跡もありますよ!

シビック・プライド越谷新聞

第3号・令和8年6月1日・旧日光街道・越谷宿を考える会*越谷のシビック・プライドを楽しむ会*発行

西浦遺跡

3月23日、「大袋地区」大字大竹の字西浦で遺跡発掘説明会が教委・生涯学習課により行われました。

地表にあったのは土器破片! 地中にはどんな遺跡が埋もれていた? 興味深々の成果は~ 古墳時代後期(6~7世紀)、奈良・平安時代(7世紀後半~9世紀)から江戸時代(18~19世紀)にわたる遺跡であることがわかったとのこと。

いま、少し遠くを流れる元荒川は、以前は^{しめきり}メ切橋の^{きたちゅう}北中の東に至って、^{あたり}日光街道^{あたり}辺から南下して現在の草加バイパス付近で右折、西へ向かい、梅林公園近くで元荒川へ戻るといった流れをしていました。

大曲流から離れ、遺跡が存在するのは、洪水を避けて、元荒川の直近を離れた場所に住み、用水は井戸で確保したものかと推測されます。



遺物・遺跡としては、ほぼ完形の須恵器^{すえき}小壺や火葬土坑^{かそう どころ}などが見つかっています。

今後の周辺の発掘調査により、住居跡の発見、近接した大道遺跡や、9世紀の重要文化財・地藏尊立像のある、元荒川対岸の野島・浄山寺との関係などが明確になってくることでしょう。



見田方遺跡

市内レイクタウンにある、越谷市で初めて見つかった遺跡です。越谷市が出来たころの大塚伴鹿^{ばんろく}・初代市長と高崎^{つとむ}力さん（当時・教員）との対話。高崎「市長、越谷市の誕生 おめでとうございます！市ができたからには、今度は市の歴史ですね。越谷市史をつくっていただかねば・・・」市長「そんなに簡単に言うなよ。市史をつくるにしても、市史の最初の章は古代じゃあないか？ 古代を飛ばした市史はないでしょう。市史なんてできないよ」高崎「うーん」（高

崎さんから聞いた、当時のお話から、当時の会話を想像復元～)

高崎さんは、市長がいわれた「市史の第一条件。市史の最初を飾る第1章「古代の章」の材料」を探すことに決めました。

たしかに、その時点では越谷に「古代の章」のタネはなかったのです。越谷だけではなく、県東部は古代遺跡など、ありえない地域として扱われてきていたのです。

「大河が流れていた低地」「古代遺跡などあるはずもない」と思われている場所で、「遺跡」をみつけねばならない高崎さんは必死でした。市長の話は裏をかえせば、「もし、越谷で遺跡が見つかったら」、越谷市史発刊を考えてもいい～ということだ。見つけてやろうじゃないの！ 高崎さんの主たる武器は自転車。それを駆使して、市内を走りまわる。遺跡を探すことなんてしたこともないのに大変でした。地獄でした。しかし、その地獄の中で、ヒントをくれたヒトがいました。それは、後に越谷市郷土研究会の会長もされた大野伊右衛門氏。遺跡がありそうな場所をあげて「あそこは行ったか、ここは行ったか」という。そして、ある時、「大相模おおさがみの一本杉あたりへ行ったか」、「あそこを探せ」という。万に一つのぎょうこう僥倖に掛けて、何回か、そこへ行き、土器の破片を発見！ その瞬間！ 高崎さん、どんなにうれしかったことでしょう！ 越谷にも、古代があった！ さあ、越谷市史も出してもらえるぞ！ 念願をはたせるぞ・・・

発掘も、高崎さんがしないといけない。遺跡の発掘など、まったくの素人。野田などの発掘現場に出向き、発掘を教わる。約2年の準備期間を経て、40～50人の規模、中学生なども動員して、昭和41年（1966）から翌年にかけて、遺跡の発掘調査を行い、見事、「見田方遺跡」を、これまで、古代遺跡とは縁のなかった県東部から、世に出されたのです。

年代は古墳時代後期、6世紀後半。行田のさきたま古墳群でいうと、將軍山古墳の時代。そこには千葉県富津市産の房州石が使われています。この石はひょっとすると、越谷を流れる荒川を遡って持ち込まれたかも知れません。見田方の人たちは、この石運送を川の岸边から見ていたかも？

市内の古代遺跡は～

今回の遺跡発掘は、大袋地区の大竹西浦ですが、これまでに、市内のどこで発掘が行われたかは～次のとおりです。

☆越谷市内・発掘された古代遺跡一覧

- | | | | |
|-----------|--------------|---------|-------|
| ○見田方遺跡 | 古墳時代後期 | ○西口遺跡 | 奈良・平安 |
| ○大道第1遺跡 | 奈良・平安 | ○大道第2遺跡 | 奈良・平安 |
| ○越谷警察署前遺跡 | 奈良・平安 | ○海道西遺跡 | 奈良・平安 |
| ○西浦遺跡 | 古墳時代後期・奈良・平安 | | |

縄文海進

縄文土器で表あらわされる「縄文時代」というのは長く、紀元前 1 万 3000 年前から、2300 年前まで、約 1 万年も続きました。その中で 7000 年前から 6000 年前までの約 1000 年間、地球の温暖化により、北極海、南極海の氷山が解け、海面が高くなる時期があったのです。

それが、縄文海進じょうもんかいしん。関東地方でも、渡良瀬遊水地わたらせのあたりまで海水が侵入してきました。蓮田市やさいたま市の北部にも貝塚遺跡があり、埼玉県内でも、内陸部の相当奥まで、海は入ってきていたようです。

しかし、縄文海進を示す地図のように、貝塚の所在地を線で結んで、その外側を全部、海の青に塗ってしまうのは間違いです。一面全部が海ではなく、海面から首を出している小島はあるし、上流から流されてきた土砂が造った砂洲さすがある～、越谷も全部が海に沈んでいたのではなく、干潟ひがたの中に島があちこちにあって、魚や貝を取りに来たヒトたちがキャンプしていたらろう～などは想像に難かたくないと思われま

す。もうひとつ、昔から、縄文海進を語るときに、誤解される数値に「海進時の最高海水準」という言葉があり、昔は現水面に比べ、10m 高かったといわれ、その後、研究の成果として昭和 43 年ごろから「2.5m」説などが登場し、20 世紀末には、ようやく、3～1.5m 説で落ち着きつつあるようです。

越谷に古墳はある？ ない？

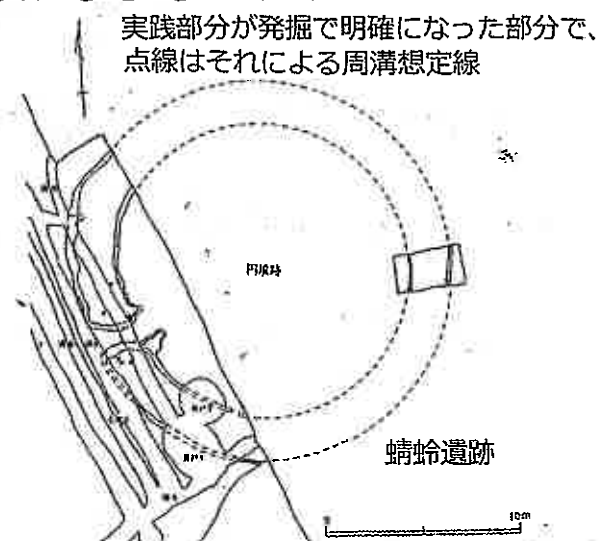
越谷に古墳はありや、なしや？ シビック・プライドとしては、古墳もあった！といたいところですが、いまのところ、古墳はありません。でも、見つかっていないだけだと思われま

せん。「埼玉の古墳」という塩野 博さんが書かれた県内古墳研究の聖典とでもいうべき専門書にはこのようにあります。

～埼玉県史（埼玉県刊・1951）によると、「^{おおさがみ ひがしかた}大相模村東方の水田中の砂岩より成る古墳石郭^{せつかく}を出し、また之に附随して埴輪円筒・須恵器を出し、明らかに古墳の存在が見られる」と記されているが、現状では確認されていない」（塩野博著・埼玉の古墳[北埼玉・南埼玉・北葛飾]・さきたま出版会 2004 刊）。

越谷市史（通史上・昭和 50（1975）年刊）には、高崎 力さんは「埼玉県史」に記載の「この大相模古墳とは、大相模耕地のほぼ中央にあった通称「一本杉」付近ではなかったろうか」～と書かれていますが、見田方遺跡からは古墳としての特徴のある遺物は見つかっておらず、県史の示す場所は別の場所を考えねばならないようです。

県東部でも、台地上では春日部市の内^{うち}牧、杉戸町の目沼^{めぬま}、木野川古墳群^{きのがわ}が発掘調査も行われていますが、低地、平地上での古墳で存在が確認されたもので、注目したいのは次の二つです。

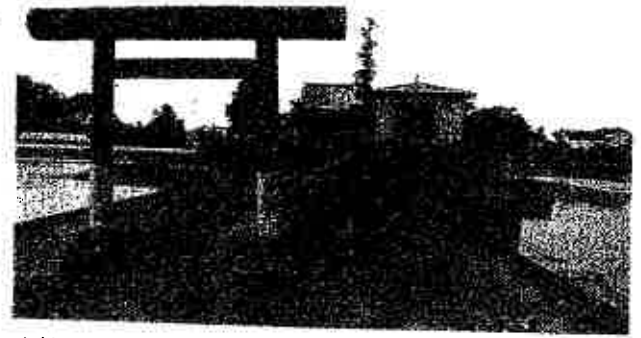


- ①草加・蜻蛉遺跡^{とんぼ} 墳丘は削平されてまったくなくなっており、墳
- ⑥

丘のまわりの堀（周溝）だけが残っていて、径約 20mの円墳であることがわかったという珍しい遺跡（古墳）なのです。

②大塚^{ほうめい}豊明神社古墳 県の東部には、

古墳時代初期の古墳は存在していなかった。わずかに本庄のあたりで利根川に流れ込む女堀川^{おんなほりかわ}流域の鷺山^{さぎやま}古墳が

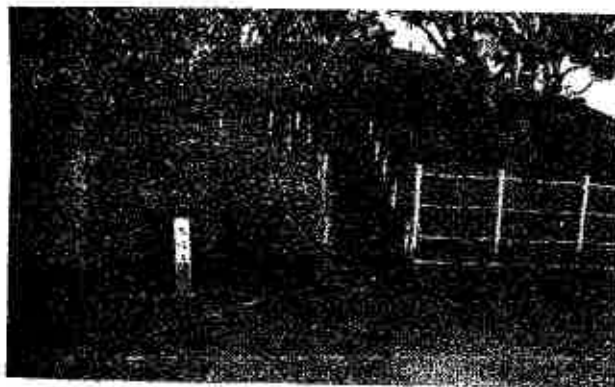


大塚豊明神社古墳（杉戸町）

利根川を遡ってきた人たちによって造られたのではないかと思われるだけでしたが、杉戸町大塚で県東部初めての初期古墳が見つかりました。神社の擁壁^{ようへき}工事の際に、底部穿孔壺形土器^{ていぶ せんこうつぼがた}や器台形土器^{きだい がた}の脚部破片^{きゃくぶ}など初期の古墳らしいモノが見つかったのです。なぜ、人々は荒川の方を遡り、利根川を上らなかったのか、遠浅の海、上流から多くの土砂が流れてくる川は、彼らの舟で上がるのが難しかったのか、そんな想像もできますが、困難も乗り越えて上がってきた人々もあって、県東部にも古墳時代の夜明けが訪れていたのです。

東京都内にも、結構、古墳は多いのです。東京の東部では柴又^{しばまた}の八幡神社古墳をはじめとする葛飾区、白旗塚古墳などの足立区など東京低地といわれるところにも古墳があり、上野公園の中の摺鉢山^{すりばち}古墳、芝公園^{しばまるやま}の芝丸山古墳、西の方へ目をむけると田園調布の地価の高いところにも、都内で5本の指に入る古い古墳を含む古墳群があるという

華やかさです。



野毛大塚古墳 (世田谷区野毛)

越谷にも、古墳があっても不思議はありません。ぜひ、越谷で古墳が見つかる日を、みんなで楽しみにしたいと思います。

☆この他、時代は関係なく、市民として「発掘」していただきたい場所は～

○越谷御殿跡

なんといっても、越谷をつくってくれた家康が、好んできてくれた「越谷御殿」を発掘していただきたい。なんとしても、^{みつ} ^{ぼあおい} 三つ葉 葵の屋根瓦や^{そせき} 礎石を見つけていただき、御殿を復元、資料館建設→観光資源にも使うスタートに！

①西浦遺跡・地図 こしがや案内図 NO.48 越谷市広報シティプロモーション課 編・刊 R7.1

②見田方遺跡・写真 「鼓動」VOL.101 越谷商工会議所だより 越谷商工会議所刊 2024.8

⑥蜻蛉遺跡・図 埼玉の古墳・北足立・入間 塩野 博著 さきたま出版会刊 2004.9

註 本号においては、「古代の定義」を平安時代以前といたしました